

令和7年度黒川里山センター 運営業務モニタリング（外部評価者記入用）

No.	項目		内容	確認方法 及び 頻度		市評価	備考
1	基本項目	運営業務報告	・運営業務年間計画書の作成・提出	年間計画書	定期（年次）	適合	
2			・自主事業企画書の作成・提出	年間計画書	定期（年次）	適合	
3			・自主事業の開催	年間報告書	定期（年次）	適合	
4			・実施体制及び運営業務従者等の選任、報告	年間計画書	定期（年次）	適合	
5			・年間報告書の作成、提出	年間報告書	定期（年次）	適合	
6			・月報の作成、提出	月次報告書	定期（月次）	適合	
7			・使用料月次報告書の作成、提出	月次報告書	定期（月次）	適合	
8		非常時・災害時の対応	・非常時、災害時対応マニュアルの作成、更新 （他、維持管理業務における考え方に準ずる）	-	随時	適合	
9		個人情報の保護	・個人情報の保護、管理マニュアルの作成、更新 （市条例の考え方に準ずる）	-	随時	適合	
10		市への協力	・市が実施する事業への積極的な支援、協力	年間報告書	定期（年次）	適合	
所 見							
委員A 館内清掃、草刈り、溝掃除、周辺整備などが計画的に実施され、良好な施設環境が維持されています。シルバー人材センター等の外部リソースも有効に活用されています。また、年間を通して発生した北棟講座室の雨漏り（6月・11月）、窓ガラス破損（7月・9月）、調理室窓枠落下（10月）Wi-Fi不良に伴う警備システム不具合（2月）などの突発的な施設不具合に対し、業者と迅速に連携し、応急処置や修繕、定期点検を適切に遂行しています。 委員B 基本項目は市評価のすべてが適合となっており、実施要綱に即していると評価する。 委員C 概ね良好である。							
改 善 項 目							
委員A ハチの巣駆除（7月・9月）や消防点検（7月・8月・2月）、危機管理課による発電機点検（2月）など、来館者の安全を確保するための維持管理が徹底されていますが、昨今の熊被害や、異常気象による災害など予想もつかない危機に遭遇することもありますので、危機管理に関するなお一層の体制強化が期待されます。 委員B 昨年の当該項目で指摘したクマ等の出没に対応するマニュアルが新たに定められたことは評価をしたい。ただ、実際に出没した場合の想定での対応、訓練を実施するのが望ましい。 委員C 特になし。							

No.	項目		内容	確認方法 及び 頻度		市評価	備考
11	黒川里山センター施設運営	庶務業務	・視察者や見学者への対応、各種問合せ、苦情、要望等への適切な改善措置及び報告。重要事項については随時報告。	月次報告書	定期（月次）	適合	
12			・収入集計及び使用状況表の作成、保管	月次報告書	定期（月次）	適合	
13		利用促進業務	・市広報や報道機関、地域ミニコミ誌等への情報提供	年間報告書	定期（年次）	適合	
14		貸出業務	・黒川里山センターの利用予約受付、許可	月次報告書	定期（月次）	適合	
15			・利用者への設備、備品等の貸出	月次報告書	定期（月次）	適合	
16			・施設利用者との利用にかかる打ち合わせの実施	月次報告書	定期（月次）	適合	
17			・施設使用料、付属設備使用料の収納	月次報告書	定期（月次）	適合	
18			・施設利用者満足度調査（利用者アンケート）の実施	アンケート報告書	定期（年次）	適合	
19		運営業務	・職員への接遇対応マナー教育研修の実施	-	随時	適合	
20			・ポスター・チラシの効果的な掲示・配布による認知度の向上	年間報告書	定期（年次）	適合	
21			・市内の事業者・市民との連携、ネットワークの構築。	年間報告書	定期（年次）	適合	
22			・ＳＮＳを活用した情報発信及び利用者による情報拡大促進	年間報告書	定期（年次）	適合	

所 見	
委員A	のべ利用者数は前年度の7,915人から12,244人へと前年度比154.7％（プラス4,329人）の大幅な増加を記録しており、施設の活発な利用と認知度の向上が認められます。アンケートを拝見すると、職員の対応の評価も高く、そうした接客の積み重ねが、利用者増につながっているのではないでしょう。
委員B	施設運営についても良好である。実施事業に創意工夫がされたことによって、利用者数が大幅に増加していることに関しては、大いに評価したい。
委員C	概ね良好である。
改 善 項 目	
委員A	一方のべ利用者数に含まれる「内貸室利用者数」は前年度比78.8％（1,992人）に減少しました。さらに、南北棟のオープンに伴い利用料金の安い部屋が選ばれる傾向にあったため、使用料収入の合計は63,782円（前年度比57.9％）と前年度から46,463円減少しており、利用形態の変化に合わせた収支の精査が今後の課題です。
委員B	今回は特になし。
委員C	特になし。
総 評	
委員A	委託事業において自主資金（2,124,109円）を補填し収支の均衡を図っているほか、自主事業においては予算を上回る収入（3,121,497円）を確保し、支出を抑えて適正な管理が行われています。また、令和7年度における川西市黒川里山センターの指定管理業務は、新棟・南北棟のオープンに伴うハード面の魅力向上と、SNS（Instagram）を起点とした「里山アトリエ」のヒットといったソフト面の工夫が合致し、のべ利用者数が前年度比154.7％（12,244人）と飛躍的に向上した非常に実りある1年であったと評価できます。 また、頻発した施設の経年不具合（雨漏り、窓枠落下等）に対しても、行政や建築会社等と緊密な連携をとって即座に対応しており、安全かつ快適な施設管理の義務を十分に果たしています。自主事業である「里山スクール 風泉」における教育・福祉の貢献度の高さも特筆すべき成果です。 一方で、施設が広く認知され来館者が増えたからこそ見えてきた「次への課題」も明確になりました。 1.持続可能な地域連携の再構築：「みんな食堂」の担い手である女性部の負担軽減や、「里山塾」の講師高齢化に伴う近隣地域へのネットワーク拡大など、地域住民の負担に頼りすぎない持続可能な仕組みづくりが急務です。 2.交流の深化と“関係人口”の創出：「みんな食堂」「みんなの農園」「里山マルシェ」等において、単なる利用やイベント参加にとどまっている一般参加者を、地域住民との深い交流や、将来的な里山管理の担い手（運営側・関係人口）へと引き上げていく仕掛けが求められます。 3.インフラ・アクセス面の改善：里山マルシェ等における駐車場不足（グラウンド開放での対応）への対策や、来館者から要望の多い送迎・周辺施設との連携など、アクセス面での工夫の検討が必要です。 総じて、NPO法人コクレオの森は指定管理者として、施設のポテンシャルを最大限に引き出し、素晴らしい集客成果を上げました。今後は、今年度得られた具体的な課題（イベント型からゆとりとした滞在型プログラムへの移行、クール生を主軸とした地域交流の深化など）を次年度の計画へと確実に反映させ、黒川地域の里山文化の保存と発展に向け、より地域に根ざした持続可能な運営体制を確立されることを期待します。 委員B 概ね計画通りに運営されている。今後とも市所管課と報告・相談等の連絡を密にして、利用者への満足度の高いサービスの提供を継続して頂く事を望むところである。 委員C 特段問題はない。